

突如教科書に現れた

三内丸山遺跡

青森県青森市大字三内字丸山にある、縄文時代の大規模集落跡。
今や我々にとって常識となっているこの遺跡は
たった26年前までは教科書にも載っていなかった。



三内丸山遺跡の歩み

寛政8年（1796） 瓦や土偶出土
（『栖家の山』より）
元和9年（1623） 多量の土偶出土
（『永禄日記』より）

～

平成4年 発掘調査開始 大規模集落出土
平成6年 遺跡の保存を決定
平成7年 遺跡の整備と公開を開始
平成9年 史跡に指定
平成10年 指導要領「資料などを活用」

平成11年 教科書①
平成12年 特別史跡に指定
平成15年 出土品1958点が重要文化財に指定
平成16年 教科書②
平成20年 指導要領で縄文時代を扱うように
平成22年 教科書③

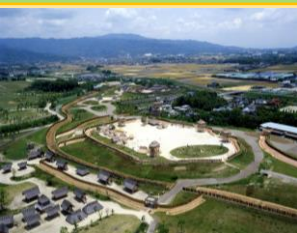
～

令和3年 吉野ケ里遺跡と共に世界文化遺産登録
令和7年現在 第49回発掘調査



コラム

吉野ケ里遺跡



弥生時代の大規模集落跡であるこの遺跡も
本格的な発掘は平成元年と比較的近年であり、
教科書では三内丸山遺跡と比較して掲載される。

指導要領での扱い

平成10年の改定では、小学校6年生で扱う内容に
「資料などを活用」することが追加されました。
また、このころ扱われていた範囲は、「農耕の始まり」
以降でした。20年の改定では、扱う範囲が「狩猟・採
集」以降となり、縄文時代が扱われるようになりました。
こうした変遷には、ゆとり教育が深く関わっています。

このワークショップでは、平成11年、16年、22年検定の
東京書籍発行小学校6年生の社会科の教科書『新しい社会6』から、
三内丸山遺跡が登場する箇所を付属資料として紹介しています。

教科書の記述や取り上げ方にどのような変化があるのかを
上記の年表と比べながら、ぜひ確かめてみてください。